

Express5800/ft サーバ

RDR 機能対応モデルでのディスク交換時の 注意点 (ft 制御ソフトウェア Ver.3.0)

RDR 機能により二重化している ft サーバ内蔵スロットのディスクを、ユーザーズガイドの手順で交換した場合、データ破損もしくはシステムダウンとなることがあります。ディスク交換は、必ず本書の「ディスク交換手順」により実施してください(ユーザーズガイドとは手順 5 が異なります)。

また、ディスク交換手順の変更に伴い、問題が発生するコマンドを使用できないように修正した RDR Utility Ver.1.0.0.1 を「8 番街」(<http://www.express.nec.co.jp/>)と「PP・サポートサービス」の Web サイトで公開しています。

ディスク交換を実施する前に、RDR Utility のバージョンを確認し、Ver.1.0 の場合はアップデートモジュールを Web サイトからダウンロードし、Ver.1.0.0.1 にアップデートしてください。

<対象環境>

HW 環境: Express5800/ft サーバ 2005 年 1 月 31 日以降出荷の下記型番製品
(N8800-067 / N8800-068 / N8800-069 / N8800-072 /
N8800-063E / N8800-063F / N8800-064E / N8800-064F /
N8800-070F / N8800-073F)

SW 環境: Windows Server 2003 Enterprise Edition
ft 制御ソフトウェア Ver.3.0

<RDR Utility のバージョン確認手順>

RDR Utility のバージョンを確認し、Ver.1.0 の場合は、「RDR Utility のアップデート手順」にしたがい、Ver.1.0.0.1 にアップデートしてください。

1. [スタート] - [すべてのプログラム] - [RDR] - [RDR Utility]をクリックし、RDR Utility を起動する。
2. RDR Utility のメニューから[ヘルプ] - [バージョン]をクリックする。

<RDR Utility のアップデート手順>

アップデートに要する時間は、約 10 分です。

アップデート時にシステムを停止(再起動)する必要はありません。

1. ft サーバを起動し、Administrator 権限を持つアカウントでログオンする。
2. Web サイトからダウンロードしたアップデートモジュール「W2K05002.exe」(自己解凍型ファイル)を実行し、解凍する。
3. RDR Utility が起動していないことを確認し、手順 2 で解凍された「UPDATE.BAT」を実行する。
RDR Utility を起動している場合は、RDR Utility を終了した後に「UPDATE.BAT」を実行してください。
4. 「RDR Utility 1.0.0.1 Setup completed successfully.」ポップアップが表示されたら、RDR Utility のアップデートが完了です。
[OK]ボタンをクリックし、終了してください。

<ディスク交換手順>

重要

- RDR Utility の表示は自動では更新されません。その都度、[操作(A)]-[更新(R)]をクリック(または、F5 キーを押下)し、表示を更新してください。

RDR 機能を使用する上での注意点

- RDR 機能使用時、新しいディスクの挿入や交換は、必ず ft サーバの電源がオンの状態で実施してください。
ft サーバの電源がオフの状態、RDR を設定したディスクの対となるスロットに、新しいディスク(Windows 上で初期化されていないディスク)を挿入し起動した場合、起動時に OS が起動不可となったり、ディスクの同期が正常に完了しないことがあります。
-
-

1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[RDR]-[RDR Utility]をクリックし、RDR Utility を起動する。
 2. ユーザーズガイドの「故障ディスクの特定方法」により特定した故障ディスクを抜く。
-

重要

- 交換するディスクのスロット位置を必ずメモしておいてください。
-

3. 新しいディスクを同一スロットに挿入する。
-

重要

- 挿入するディスクは、対応するスロットに挿入してあるディスクと同容量の新品または物理フォーマットしたディスクを使用してください。
 - 新しいディスクを挿入したスロット位置を必ずメモしておいてください。
-

4. 挿入したディスクに対して RDR の設定が自動で行われ、当該ディスクと対応するスロットのディスクの DISK ランプが下表のように変化する。
また、RDR Utility で確認できる両ディスクの[状態]が「Duplex」に遷移することを確認する。

	DISK ランプの遷移		
交換したディスク	グリーン点灯	アンバー点灯	グリーン点灯
対応するスロットのディスク	アンバー点灯		グリーン点灯

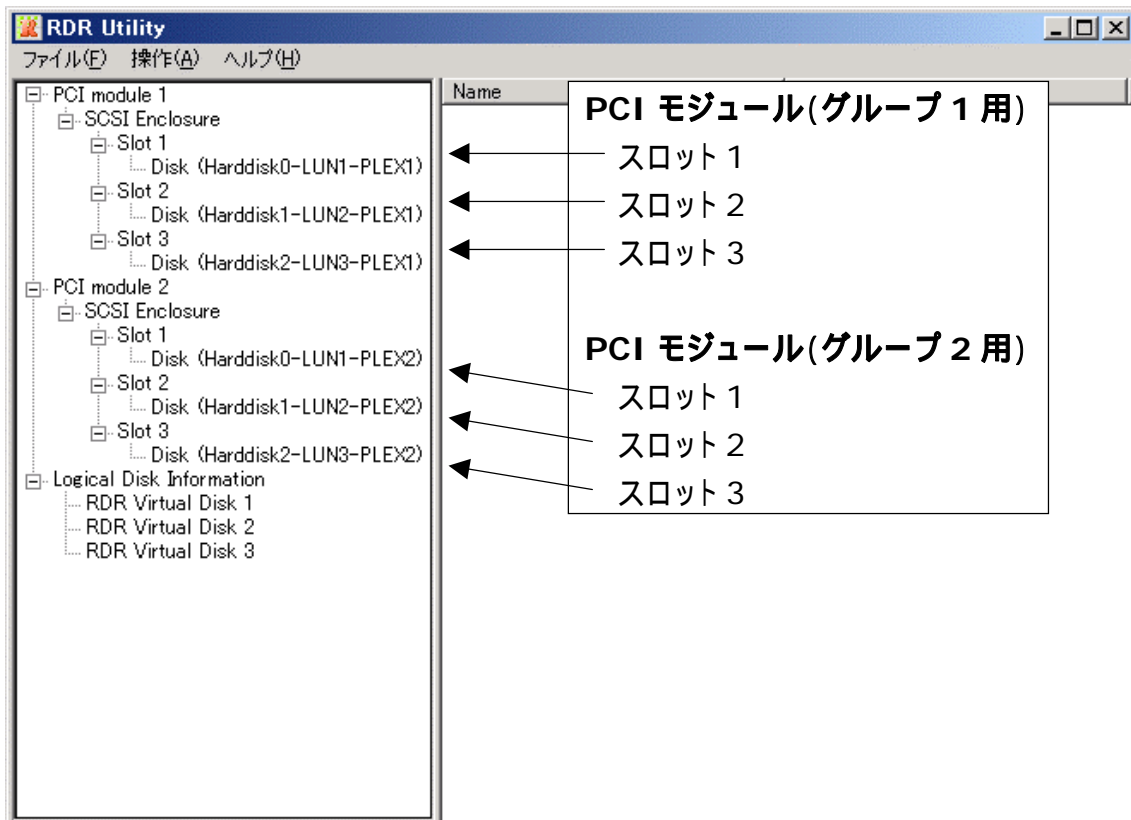
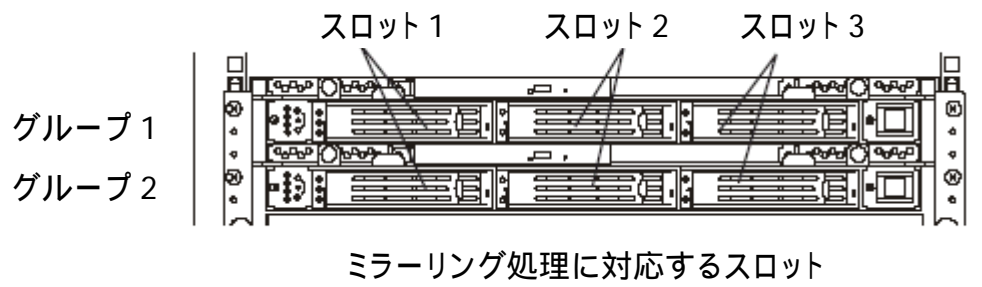
ディスクにパーティション/ボリュームが存在しない場合はグリーン点灯のままです。

5. 両ディスクの DISK ランプがグリーン点灯、かつ、状態が「Duplex」に遷移後、
RDR Utility で手順 3 で挿入したディスクを選択後、右クリックし、
「ディスク再同期を実行」コマンドを実行する。

重要

- 稼働側のディスクに対してコマンドを実行した場合、ディスク内のデータが破損することがありますので、必ず手順 3 で挿入したディスクに対してコマンドを実行してください。
 - スロットと RDR Utility の対応については次ページの図をご覧ください。
-

ディスクスロットとRDR Utilityとの対応図



RDR Utility

6. 対応するスロットのディスクとの同期が開始され、各ディスクの DISK ランプ及びディスク状態が以下のように変化することを確認する。

- 各ディスクのDISKランプ

	DISK ランプの遷移	
交換したディスク	グリーン点灯	グリーン点灯
対応するスロットのディスク	グリーン点灯	アンバー点灯

- RDR Utilityから確認できる各ディスクとRDR Virtual Diskの[状態]と[詳細]

	状態	詳細
交換したディスク	Syncing	None
対応するスロットのディスク	Simplex	None
RDR Virtual Disk	Simplex	None

7. 各ディスクの DISK ランプ及びディスク状態が以下のように変化したら同期処理が完了です。

- 各ディスクの DISK ランプ

	DISK ランプの遷移	
交換したディスク	グリーン点灯	グリーン点灯
対応するスロットのディスク	アンバー点灯	グリーン点灯

- RDR Utility から確認できる各ディスクと RDR Virtual Disk の[状態]と[詳細]

	状態	詳細
交換したディスク	Duplex	None
対応するスロットのディスク	Duplex	None
RDR Virtual Disk	Duplex	None